

大学院美術研究科 博士前期課程 教員プロフィール

【芸術文化専攻】

■美術史研究領域

齊藤全人(さいとう まひと)

宮内庁三の丸尚蔵館(現・皇居三の丸尚蔵館)、たましん美術館に学芸員として勤務。専門は近世・近代の日本絵画史。江戸時代後半から明治時代前半にかけての日本美術の変遷を中心に研究している。主な論文に「始興再考－光琳との関係性をめぐって－」、「結城素明筆《鳳凰図》－交差する東西の視点」、主な担当展覧会に「三条実美と岩倉具視 一代絵巻が物語る幕末維新」展、「邨田丹陵 時代を描いたやまと絵師」展など。

檜山満照(ならやま みつてる)

専門は中国を中心とする東アジア古代美術史。図像学のほか、古代から近代まで続いた中国美術の他地域への伝播とその影響に関心をもち、異文化接触の観点から、芸術と政治の接点について分析している。著書・論文に『蜀の美術－鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化』、「漢代の立体人物像にみる具象と抽象－中国における仏像制作の前史として」など。

三谷理華(みたに りか)

福岡市美術館、静岡県立美術館に学芸員として勤務。専門はフランスを中心としたヨーロッパの近代美術史、日仏文化交流史。フィールド・ワークから得られるデータを基にした美術史研究のあり方や国境や領域を超えた文化交流の諸相の解明を模索している。主な論文に「ラファエル・コランとフォントネー＝オ＝ローズのアトリエをめぐり－考察」、「ラファエル・コランの極東美術コレクション－新出旧蔵品について」、主な担当展覧会に「ラファエル・コラン展」、「レオナール・フジタ展」など。

■芸術表象研究領域

栗田大輔(あわた だいすけ)

専門は芸術理論、美術批評。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。芸術や文化的表象をめぐる領域横断的な知の構築を通じ、現代美術を中心とした表現研究や批評を行っている。またアーカイブやインタビューの実践的な取り組みとして日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブに参加。共著に『近現代の芸術史 造形篇Ⅱ アジア・アフリカと新しい潮流』、共編著に『中原佑介美術批評選集』など。

■美術教育研究領域

鈴木淳子(すずき あつこ)

女子美術大学芸術学部卒業、横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了。東京都の公立学校教員として美術教育、教育行政、学校経営に携わった後、2011年より女子美術大学勤務。美術教育の理論、美術科指導法、カリキュラムについて研究している。著書に『美術科教育の理論と実際－美術科の教員を目指す人のために－』『美術科教育の理論と指導法』(共著)など。